

荷電粒子管理運営委員会 議事録 第10回

日時 : 1992年2月27日(木) 6時30分～
場所 : 北海道大学情報処理教育センター3階会議室
出席者 : 赤石、長田、加藤、岡部、能登、片山、千葉、吉田、向井

I. 報告

- 加藤 : 大型センターの報告書データベース開発で2.2MBで報告した。(例年は2.5～3.0MB)
論文の編数は多いのだがデータ量はさほど増えない。
3/2に大型センターで報告会があるが、千葉さんに出席してもらいたい。(だめなら加藤)
- 吉田 : 58編中49編パンチ、グラフ入力済み。2.2MBになる予定。
- 千葉 : ソ連から手紙が二通きていて、すでに返事を出しました。
ワークショップを開く意志はないかという質問と、
VAX対応にする予定はあるかという質問。

II. 討論

[1] 1991年度報告書について

- 加藤 : EXFORのインデックスは懸案になっていたが200ページもあるので今回は無理と判断する。この委員会の議事録も載せた方が良くと思う。今年度のNRDF報告書は計90～100ページになる予定。

[2] 報告書の内容について

- 能登 : 以下の「データ採集従来基準」について意見を聞きたい。
Ⅲ) 核反応と核構造との区別についての基準
Ⅳ) 誘導測定量の判断の基準
- 加藤 : 実質的には、フォーマットがはっきりしているものを収集してきた。はっきりしていないものについてはⅢ)やⅣ)を考慮して判断して来た。
- 能登 : ハイパー核など中間エネルギーに拡張する場合の問題点として、国内のデータだけでデータベースとしての価値があるか、という疑問が起こってくる。
- 加藤 : 前書きで、赤石さんにNRDFの価値について我々の考え方を書いていただきたい。

片山 : 実験施設ごとに、データ入力に協力してくれる人を頼むことを積極的に行ってはどうか。

加藤 : 片山さんの意見に賛成です。具体的なやり方をしていく必要がある。

Ⅲ. 次回の委員会は1992年3月24日(火)6時30分から

荷電粒子管理運営委員会

議事録 92年度 第1回

日時 : 1992年4月10日(金) 6時30分～
場所 : 北海道大学情報処理教育センター3階会議室
出席者 : 赤石、長田、加藤、岡部、能登、田中、千葉、吉田、向井

I. 報告

加藤 : 作業報告。4月末までにマージ終了予定。マージ後 Author Check をする方針。方式は検討中。
赤石 : 3月2日の報告会に出席した。データベース総数は20位であるとのこと。また、6月1日以降の体制について考えて頂きたい。

II. 討論

[1] 6月1日以後の体制について

赤石 : 委員会の司会は長田さんをお願いしたい。実質的な作業の責任者を加藤さんをお願いしたい。
加藤 : 長期的に考える必要があると思われる。
赤石 : 体制については次回までに提案する。

[その他]

加藤 : 報告書について、今回は時間の都合上、英文は目次の部分しか付いていないが、次年度からは英文のタイトルとアブストラクトを付けるようにする。

III. 次回の委員会は1992年5月22日(金)午後6時から

荷電粒子管理運営委員会 議事録 92年度 第2回

日時 : 1992年5月23日(土) 2時～
場所 : 北海道大学情報処理教育センター3階会議室
出席者 : 赤石、長田、加藤、岡部、能登、片山、千葉、吉田、向井

I. 報告

- 加藤 : 年次報告書を発送した。発送先に、7大学の大型計算機センターを追加した。
- 岡部 : 90年度までのデータを、パソコンでも利用可能なように、3.5インチ光磁気ディスク(128MB/枚)に格納した、圧縮格納して、約18MBである。
- 赤石 : 6月の適当な時期に、文部省に報告書を持って行く。
- 吉田 : 各研究所に Annual Reportを請求した。
- 向井 : 91年度のデータ、56編中48編マージ済み。
- 千葉 : 作業用ファイルがいっぱいになったので、新ファイルを作成し90年度までの作業用データを退避した。

II. 討論

[1] 6月1日以後の体制について

- 赤石 : 代表者は北大名誉教授である田中一氏に願います。
年次報告書編集委員会の委員長を加藤氏に依頼する。
編集委員として、長田、能登の両氏に参加してもらいたい。
- 加藤 : 今後、赤石氏は助言委員として参加して頂く。

[2] 岡部から以下の二項の提案があった。

- (1) 北海道原子核理論グループで、今年8月、地域スクールの開催を企画している。理研の谷畑氏、基研の阿部氏(助言委員)も参加を予定している。NRDFとしても、この機会を利用して意見交換を行ってはどうか? そのために必要な費用の拠出は可能か?
- (2) NRDFの位置づけを確かめる一つとして、NRDFで収集している国内生産の荷電粒子反応に限らず、一年間に世界の主な雑誌に報告されている原子核実験のデータを調査する。調査するのは、反応粒子、エネルギー、研究所などである。具体的作業にはアルバイトの雇用が必要で

あるが、そのための費用の拠出は可能か？

これに関し以下の意見がだされた

- 加藤 : 企画資金として20万円の予算が組まれている。目的は、データ作成のため議論・討論するための会議を開催したり、関係する研究会に参加するためのものである。その具体予算執行については本管理運営委員会の承認の下に行われる。
- 能登 : 手塚、野尻両氏を呼んで、データ収集やコーディングシートの問題点について話し合う機会を持ちたい。
- 長田 : (1)については、必ずしも他の懸案と排他的に考える必要はない。(2)については、今回の会議で早急に決定する必要がある。

(2)については承認し、(1)については、次回改めて検討することとした。

[3] 文法書の更新について
次回、検討する。

[4] データの著者チェックの方法について
次回、検討する。

Ⅲ. 次回の委員会は1992年6月26日(金)午後6時から

荷電粒子管理運営委員会

議事録 92年度 第3回

日時 : 1992年6月26日(土) 6時30分～
場所 : 北海道大学情報処理教育センター3階会議室
出席者 : 長田、加藤、岡部、能登、片山、千葉、吉田、向井

I. 報告

- 岡部 : 前回認められた、データの調査を現在行っている。
- 片山 : データの著者チェックの為に、NRDF画面出力をダウンロードしてフロッピーディスクに納めることとする。
- 能登 : 辞書の更新を行った。
- 加藤 : 文部省に報告書を提出した。
理学部主経課に対し概算要求を出すための資料を作成中。
本年度は1310件のデータを収集する予定であると、報告した。
シグマ委員会のプログレスレポートの原稿依頼がきている。
締切り8月7日必着
- 千葉 : データベースのテクニカルスタッフの会議がウィーンで開催される。来年のセンター長会議はパリで行われる。
- 向井 : 91年度のデータ、56編中52編登録済み。データ量は、最終的に2.3MBになった。
- 吉田 : 今年度発行のAnnual Reportが理研から送られてきた。
70年度以降のAnnual Reportを請求して揃える予定。

II. 討論

[1] シグマ委員会の原稿依頼について

赤石氏に例年はどうしていたかを聞いて、提出する原稿の内容を決定することになった。

ウィーンでの会議については、参加する予定とする。

[2] 文法書の辞書について

著者チェックに使えるような索引付きの辞書を今年度作成することとなった。

[3] 助言委員関連の承認について

前回の運営委員会で懸案となっていた、岡部による提案は承認された。案（１）、案（２）合わせて、費用の上限を１０～１５万円とする。

[4] データ収集の範囲について

次回、検討する。

Ⅲ. 次回の委員会は1992年7月21日（火）午後6時から

荷電粒子管理運営委員会

議事録 92年度 第4回

日時 : 1992年7月21日(火) 6時～
場所 : 北海道大学情報処理教育センター3階会議室
出席者 : 長田、加藤、岡部、片山、能登、千葉

I. 報告

- 加藤 : 1992年度のシグマ委員会が7月3日東京原研本部で開催され、NRDFから加藤が赤石に代って出席し、NRDFの最近の活動を報告した。
データ収集状況は
1) 今年度入力データとして、30編の論文リストを作成した。
2) データが欠けているところについて、Annual Reportで遡って集めることにする。
- 千葉 : 9月1日～3日にウィーンで開催される予定のIAEA Consultant Meetingに出席する予定である。それに向けてEXFORへの変換を行いたい。
- 片山 : Author Check体制を夏休み明けには実施できるようにしたい。
- 能登 : 理研、KEK等のデータを収集できるようにするためにコーディング形式を野尻と議論した。

II. 討論

[1] 助言委員について

次年度から原研菊池氏を助言委員に加わってもらうことにする。
他の助言委員についても、次年度から書面をもって依頼することとする。

[2] 理研、KEKのデータを収集することについて

- ・コーディング形式を早急に作成し、来年度から収集できるようにする。
- ・NMR等のデータは収集しない。
- ・外国の加速器で得られたデータは収集しない。
- ・ μ 粒子ビームのデータは収集しない。
- ・加速器の名称(コード)の整備が必要。
- ・ハイパー核、中性子過剰核に関するデータも収集する方向で検討する。
今年度は理研のデータを試みに収集してみる。

III. 次回は1992年8月18日(火)午後4時～6時
拡大委員会とする。

荷電粒子拡大管理運営委員会

議事録 92年度 第5回

日時 : 1992年8月18日(火) 4時～

場所 : 北海道大学情報処理教育センター3階会議室

出席者 : 田中、阿部、長田、加藤、岡部、片山、能登、千葉、吉田、向井

I. 討論

[1] データ収集の範囲の拡大について

データ収集の範囲の拡大について話し合わせ、以下の事項が決定された。

- ・当面は現行コーディングフォーマットの範囲内で、KEK、理研のデータを収集する。
- ・コーディングシートの拡張性について検討を続ける。
- ・国内生産でPublishされたバリオンビームの反応を収集範囲とする。
- ・2次ビームを意識した反応式の記述については、実験家の意見も聞いて今後検討する。

[2] ウィーン会議のための準備について

以下の事項が決定された。

- ・EXFORへのデータの変換率を向上させるために、NRDFにありEXFORにないデータヘッディングの項目をリストアップする。
- ・NRDFからEXFORに変換されたデータ量に関するレポートをIAEAに提出する。
- ・EXFORのデータを学術情報センターでの利用を可能にすることについて、IAEAの了解を得る。

II. 次回は1992年9月25日(金) 午後6時～

荷電粒子管理運営委員会

議事録 92年度 第6回

日時 : 1992年9月25日(金) 6時～
場所 : 北海道大学情報処理教育センター3階会議室
出席者 : 長田、加藤、岡部、片山、能登、千葉、吉田、向井

I. 報告

- 片山 : 著者チェックシステムについては、データを見やすいように変換するプログラムを作成中。
- 加藤 : 11/26～27原研で核データ研究会が開催される。
11/27のポスターセッションに「NRDF(荷電粒子核反応データファイル)の現状と今後」を報告する予定である。
NRDFデータ評価システムの作成を検討中である。
- 千葉 : ウィーン会議に参加した。
感想として、荷電粒子に対する関心が高まっている気がする。
- 吉田 : 昨年までのアニュアルレポートに載っている論文リストのなかで、Publishされたもので、かつデータとして収集できる論文を集めて作業に取り掛かっているが、最終的に論文数がどのくらいになるかは、まだ予測がつかない。

II. 討論

- [1] コーディングフォーマットの拡張について
KEK、理研のデータを収集可能にするためにコーディングフォーマットの拡張について検討している。
・反応式の記述については実験家の意見を聞いて検討を続ける。
- [2] コーディング作業を進めていく上でのデータ収集の基準について
野尻さんからコーディング作業に関する問い合わせがあり、このことについて討論された。
・基準みたいなものを作成すべきである。
・横軸/縦軸ともに物理量でないものは取らない。
・エネルギースペクトラムは取る。
・二次反応式については実験家の意見を聞いて検討を進める。
- [3] 学術情報センターでの利用を可能にすることについて
EXFORのデータを学術情報センターに登録することが可能かどうか

問い合わせしてみたところ、「数値データを含んでいるものは業務としては受け付けられない、インデックスだけならば可能」という返事であった。

そこで以下の方針で作業を進めることとなった。

- ・インデックス切り出し作業を先行させ、インデックスのみの登録作業を進める。
- ・数値データを含んだものの登録については、学術情報センターの研究部門（根岸氏）に問い合わせ、共同研究が可能かどうかを調べる。

Ⅲ. 次回は1992年10月23日（金）午後6時～

荷電粒子管理運営委員会

議事録 92年度 第7回

日時 : 1992年10月23日(金) 6時～
場所 : 北海道大学情報処理教育センター3階会議室
出席者 : 長田、加藤、岡部、片山、能登、千葉、吉田、向井

I. 報告

- 加藤 : NRDFデータ評価システムを作るために、データの予備的分析を行なった。
大型計算機センターのデータベースが複数のユーザーが同時に利用できないことが判明した。
理研からデータの問い合わせがあり、検索結果を送った。
- 千葉 : IAEAミーティングの議事録が届いた。
学術情報センターへのデータ移植を検討している。
- 吉田 : 約180編のデータ収集候補を得た。実際にはそのうち120編程度収集する予定である。

II. 討論

- [1] 著者チェックについて
エディターのマクロコードを用いて、NRDF検索システムの出力結果を見やすいように修正して、著者に渡すようにする。
- [2] 大型計算機センターのトラブル
NRDF検索システムのコマンドプロシジャーが、シングルユーザー用になっている可能性があるので、調べてみることとなった。
- [3] 学術情報センターへのデータ移植について
インデックス・レコードの切り分け作業を進めているが、項目名で対応が不明瞭な点があり問題である。EXFORとNRDFの対応を統一的にきちんとつける必要がある。

本年度のアンニュアルレポートの予定を次回議論する。

III. 次回は1992年11月20日(金)午後6時～

荷電粒子管理運営委員会 議事録 第8回

日時 : 1992年11月20日(金) 6時～
場所 : 北海道大学情報処理教育センター3階会議室
出席者 : 長田、加藤、岡部、能登、千葉、吉田、向井

I. 報告

- 加藤 : 11月26～27日原研の核データ研究会に出席する予定。
科研費の申請を出す予定。
- 岡部 : NRDF検索システムがシングルユーザー用となっている問題点
について調査したところ、VSAMのワークデータセットとして
恒久データセットを用いている可能性があることが判明した。
- 向井 : 91年度までのデータをバックアップした。
- 吉田 : コーディング32編済み。2週間程度でパンチとグラフ入力
が終了する予定。

II. 討論

- [1] コード体系について
能登から新規コードを登録する場合に用いるコード系の案が提出され、
討論のうえ了承された。
- [2] アニュアルレポート執筆予定
加藤から本年度のアニュアルレポートの内容と執筆者の予定が発表
され、討論のうえ了承された。最終原稿の締切が2月20日である
こと、国会図書館からISSN番号を取ることが、確認された。
- [3] データ収集の範囲の拡大について
将来、プロトンインデューズドデータを網羅することの可能性について
検討を進めてゆくこととなった。

III. 次回は1992年12月25日(金)午後6時～

荷電粒子管理運営委員会 議事録 第9回

日時 : 1992年12月25日(金) 6時～
場所 : 北海道大学情報処理教育センター3階会議室
出席者 : 長田、加藤、岡部、片山、能登、千葉、吉田、向井

I. 報告

- 加藤 : 野尻さんが病気入院中、その間学生2名をアルバイトとして雇い、正月休み中コーディング作業を行ってもらうことにする。原研の核データ会議に出席した。ポスターセッションに参加した。
- 能登 : VSAMの辞書をFDに落とす作業を行っている。
- 千葉 : オーストリア会議で要請したEXFORのチェックプログラムが送られてきた。フォーマット不明のため、現在まだ読み取ることが出来ていない。
- 吉田 : コーディング38編済み。パンチとグラフ入力35編終了。

II. 討論

- [1] アニュアルレポート執筆予定
「はじめに」の原稿依頼を諮問委員の一人である阿部氏(基研)に打診することになった。
- [2] コーディング作業体制について
野尻が今年度のコーディング作業を続けることができないので、運営委員会のメンバーも可能な限り協力することになった。

III. 次回は1993年1月22日(金)午後6時～

荷電粒子管理運営委員会 議事録 第10回

日時 : 1993年1月22日(金) 6時～
場所 : 北海道大学情報処理教育センター3階会議室
出席者 : 長田、加藤、岡部、片山、能登、千葉、吉田、向井

I. 報告

- 加藤 : 原研(核データ)研究会の報告書を提出した。報告書の内容から千葉、吉田との共著という形にした。
- 能登 : コーディング用辞書について討論すべき議題がある。
- 片山 : 作業協力として3編コーディングを行った。
- 吉田 : コーディング54編済み。コーディング依頼中が20編。

II. 討論

[1] コーディング用辞書について

能登からコーディング者のための項目別NRDF辞書索引を、ENERGYについてVSAM辞書を検索して試作ものが提出された。このような仕様で引き続き作業を進めることが了承された。

[2] コンパイル済みのデータのエラーについて

項目ごとに修正してデータの信頼性を高めてゆくことにした。

[3] 来年度の作業について

加藤から来年度も少なくとも3MBのデータを収集する必要があると説明された。そのために、電子散乱データも収集範囲に加えるべきか、学位論文も公表された論文と同等と見なし収集すべきか、の2点について今後検討を進めてゆくこととなった。

III. 次回は1993年2月26日(金)午後6時～